

STATUS: [CONFIDENTIAL]

DATE: 2026.08.06

キューピー「工場シミュレーション完全自動生成」の技術的真実と戦略的含意

TARGET: 自律型AIエージェント (Devin)

DOMAIN: 生産技術 / スマートファクトリー

FOCUS : アーキテクチャ解析・知財リスク評価・導入プレイブック



報道とPRの表層 (The Headline)

**「工場のシミュレーション
モデルをAIエージェントで
完全自動生成」
「開発工数を78.8%削減」**



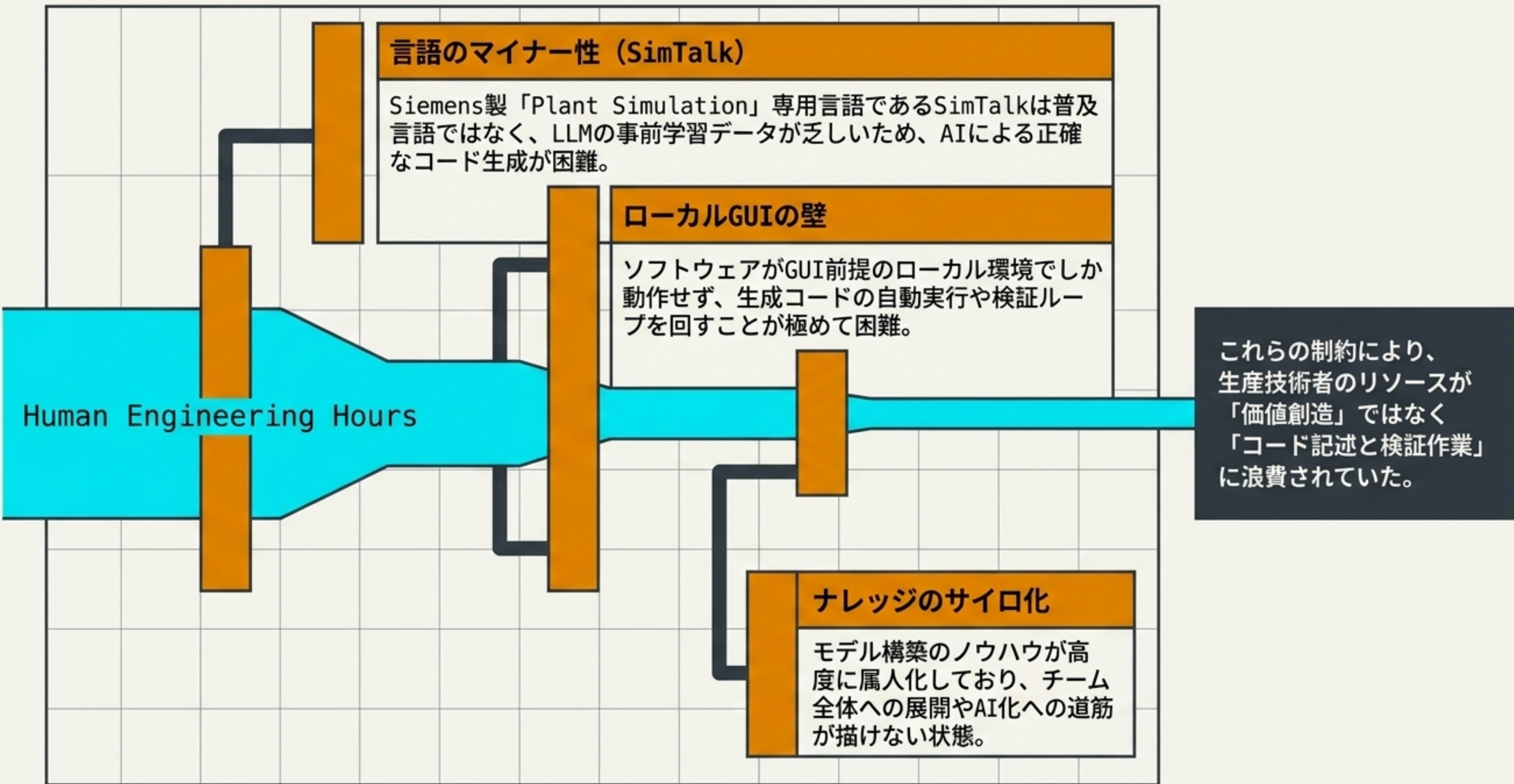
分析による事実関係 (The Ground Truth)

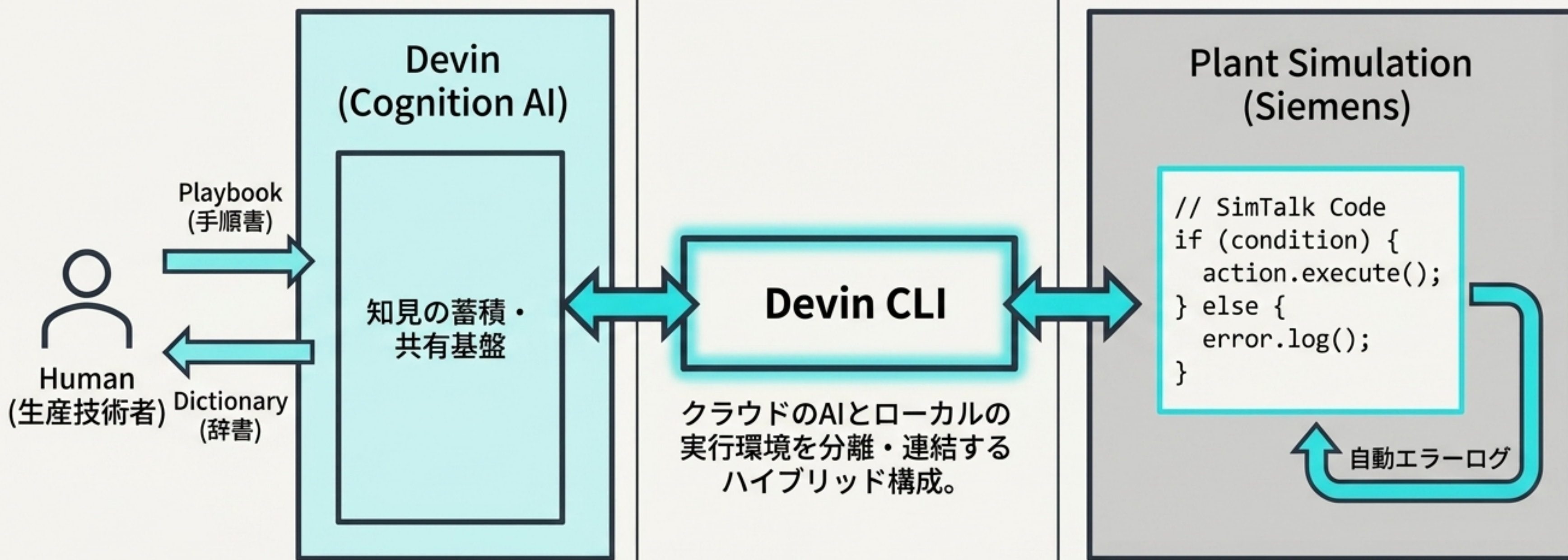
**「完全自動化」は本番ラインではなく、
小規模モデル1件のPoC（可能性検証）
に限定される。**

**発表年は2025年ではなく、2026年8月
4日である公算が大きい。**

**DeNA AI LinkによるDevin国内展開
支援の一環。**

**工場全体の全自動モデル化を意味するものではない。しかし、小規模ながらも
「AIエージェントによる生産技術の代替」を実証した重要なマイルストーンである。**

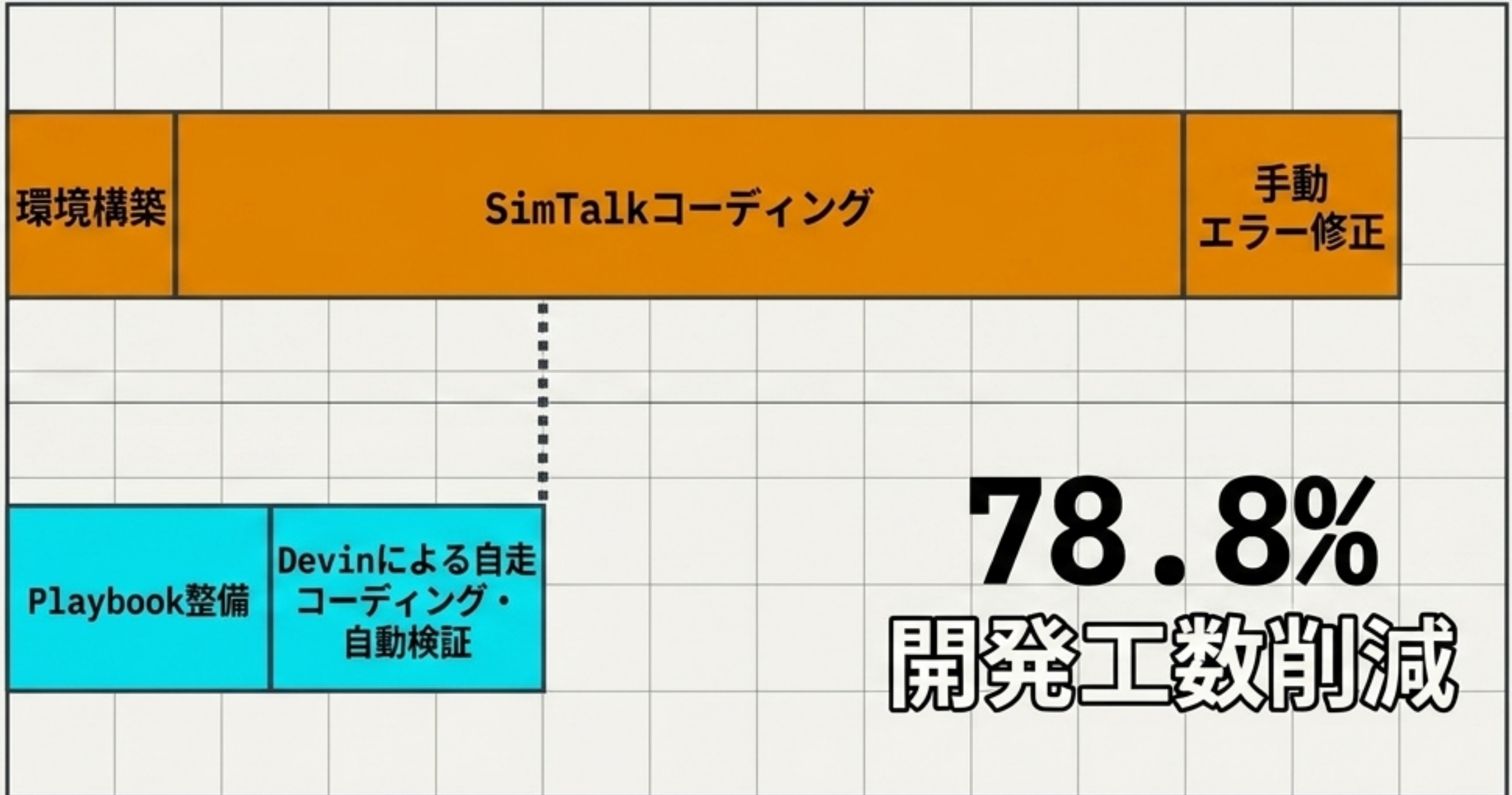




人間の役割は「コード記述」から「Playbook（ルール）の設計」へと完全にシフトした。

プロセス比較: 従来 vs AI活用 (開発工数)

従来プロセス: 8.5人日



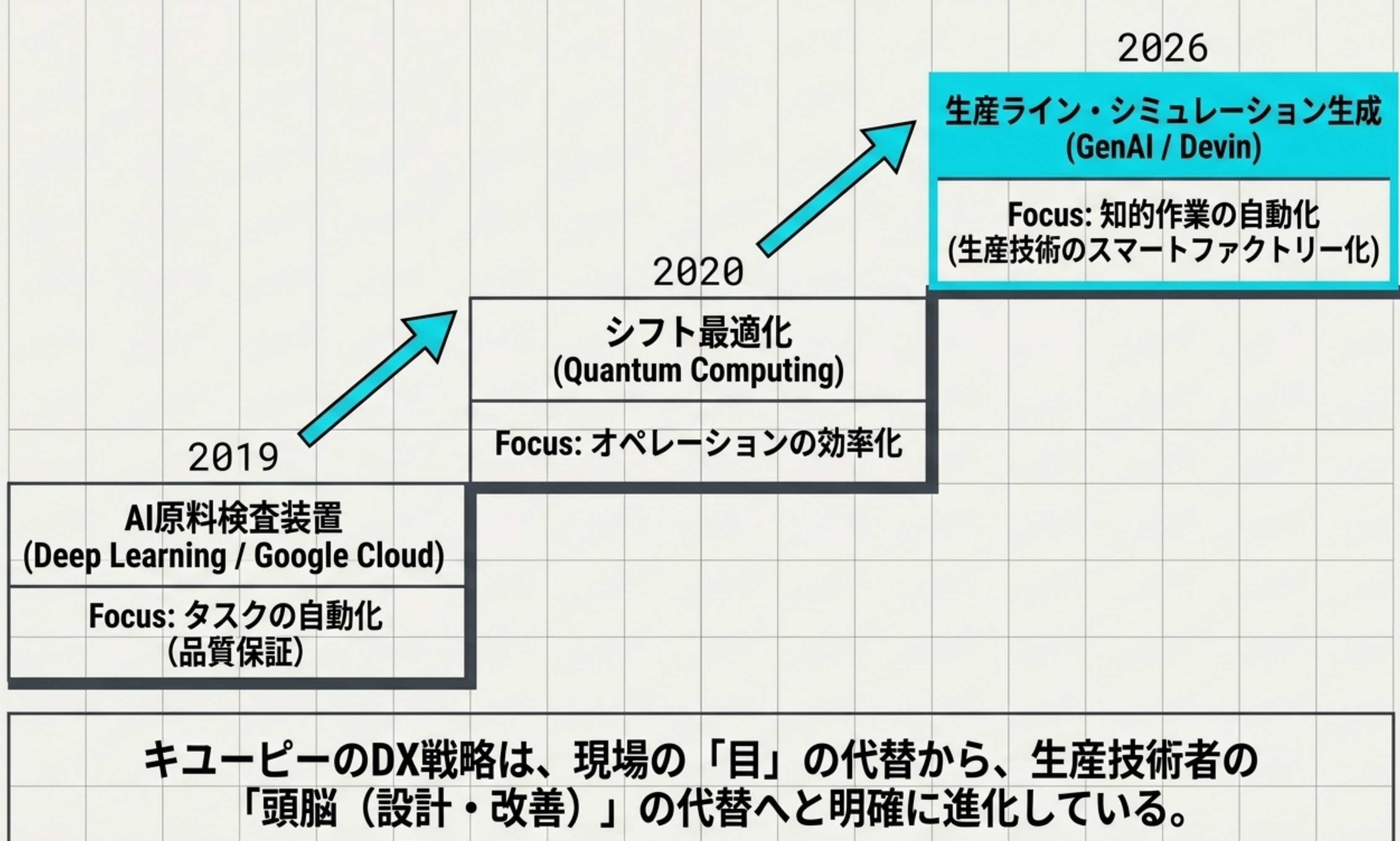
AI活用プロセス:
1.8人日

基盤整備後は「わずか1回の作り直し」でモデル作成が完了する精度に到達。
※現時点における小規模な1モデルでの実績。

Devin導入の実績と定量評価（DeNA AI Link支援事例）

導入主体		内容 / 効果
[DeNA 全社]		レガシーコード移行約6倍、分析業務3倍、見積作成8倍の効率化
[ちばぎんコンピューターサービス]		最大82%の工数削減。VB.NET移行想定12.5人月を2.0人月に
[みずほ証券]		PoCで70～90%の工数削減を確認
[札幌市]		150万ステップのテストコード書き換え工数を約4分の一に削減

特定の言語や業界に限らず、レガシー移行やテスト自動化において70%~80%の工数削減が共通して確認されている。



Y-Axis

ベンダーロックイン
(Vendor Locked)

ベンダー非依存
(Vendor Agnostic)

X-Axis

汎用AI (Generalist) <-----> 専用AI (Domain Specific)

The Pragmatic Hack (現実解)

汎用エージェント (Devin)

既存レガシー資産⁺ (Plant Simulation)

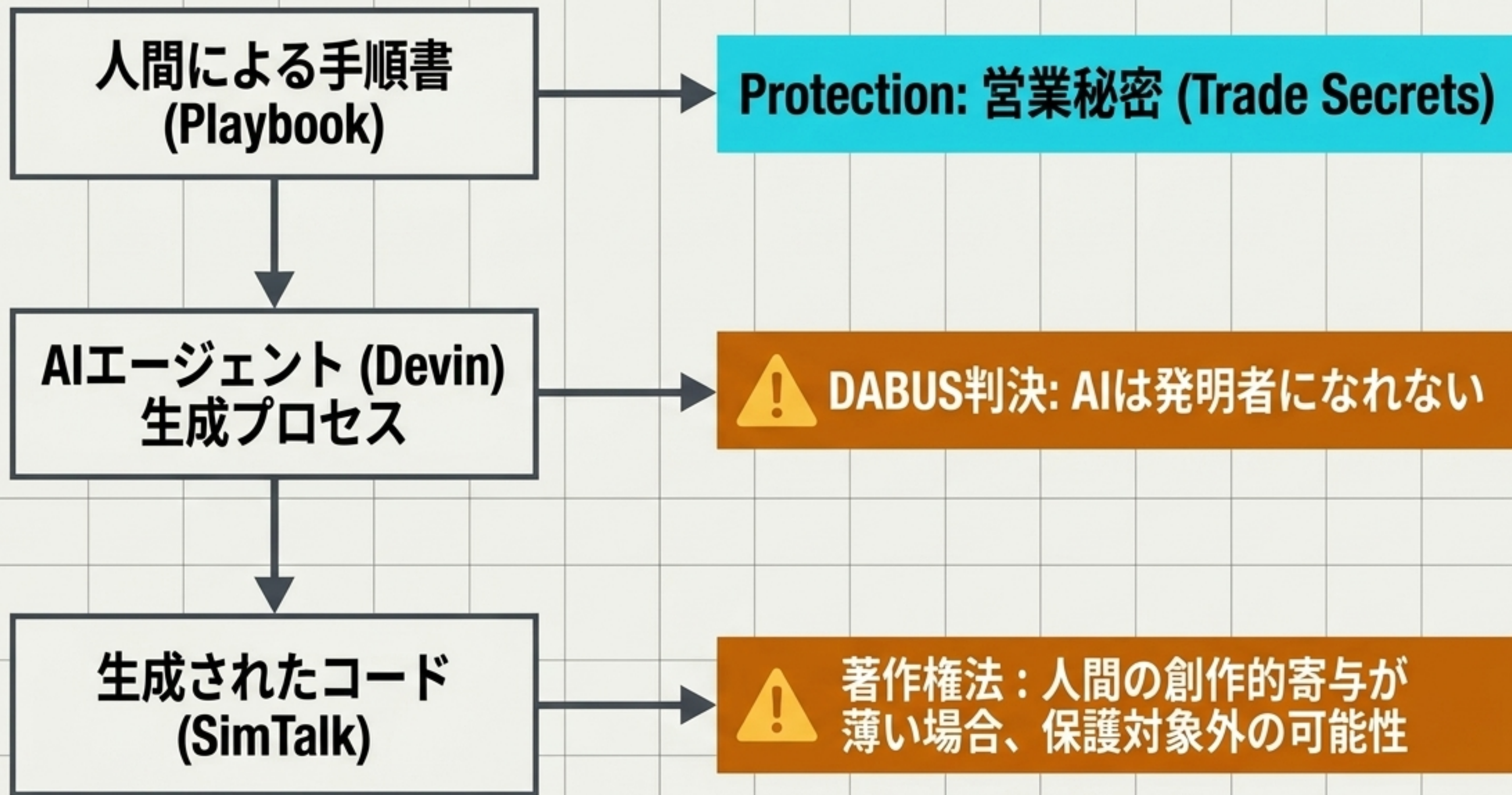
Vendor-Native AI

(Siemens ASMG, NVIDIA Omniverse)

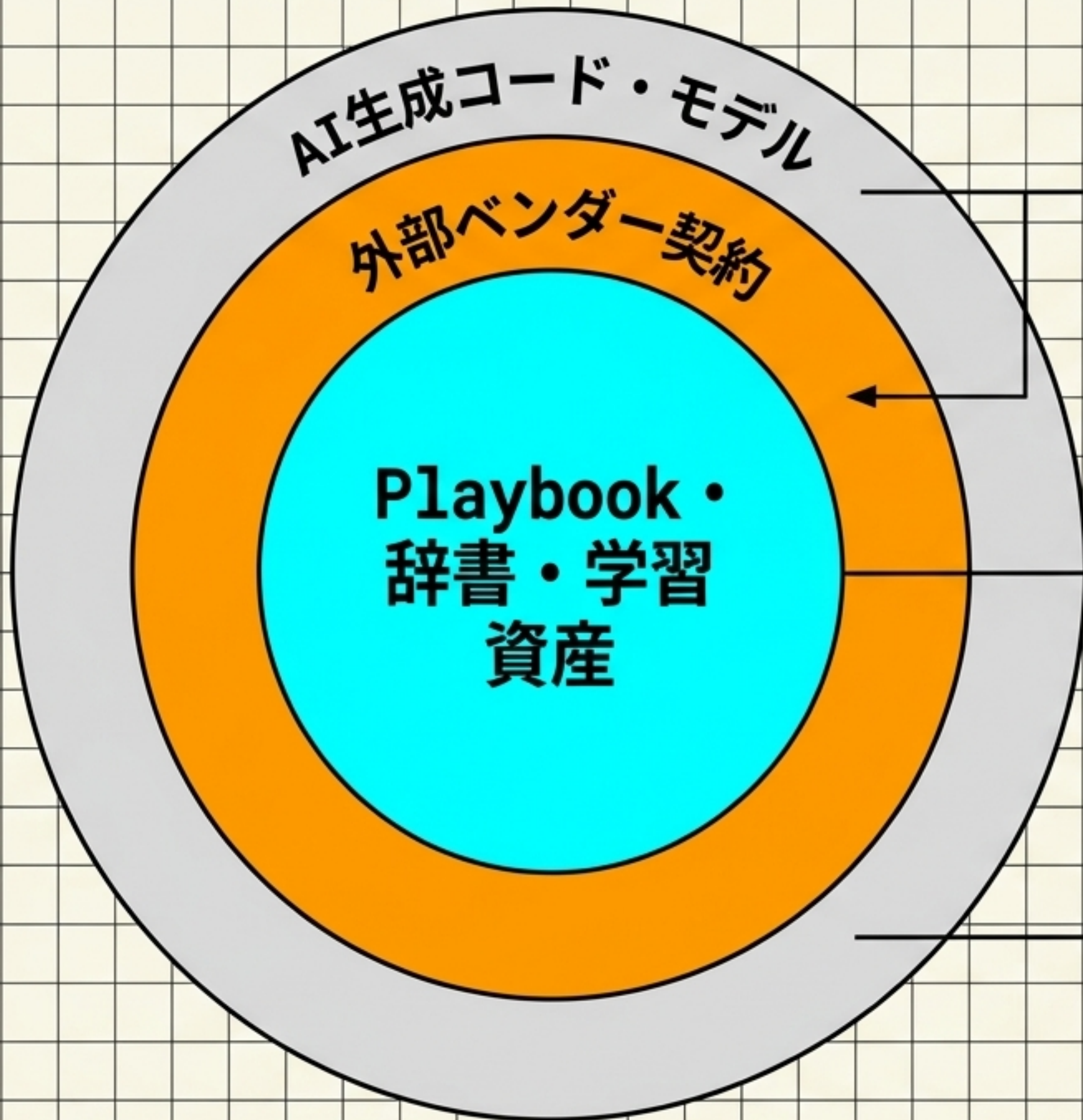
成熟を待つ段階

汎用AI (Generalist) <-----> 専用AI (Domain Specific)

ベンダー純正のネイティブAI機能の成熟を待つのではなく、汎用コーディングエージェントを用いて既存資産を「延命・高度化」する現実的なアプローチである。



AI単独で生成したモデルやコードは特許や著作権の保護が及びにくい。そのため、法的な「第一防御線」はコードそのものではなく、入力するノウハウへ移行する。



Action: 競争領域として「営業秘密・ノウハウ」の規程で厳格に囲い込む。

Action: クラウド版DevinやSiemensとの契約における、データ越境、学習利用の禁止、権利帰属を明確化する。

Action: 成果物自体の独占権に依存せず、生成ワークフローや検証自動化プロセスの特許化（プロセス特許）を代替手段として検討する。

IMMEDIATE（戦略の同期）

社内での過大評価の抑制。「完全自動生成」の実態が小規模PoCであることを周知し、正しい期待値を設定する。

3-MONTH（適合性の検証）

自社のレガシー環境（非普及言語、独自DSL）の棚卸し。汎用エージェントとローカルCLI分離の「型」を用いて、1～2個の小規模モデルでPoCを実施する。

ONGOING（ガバナンスと知財）

AI生成コードを想定した営業秘密管理規程のアップデート（アクセス制御、退職者管理）。SiemensやNVIDIA等、新興勢の「AIネイティブツイン」関連特許の継続監視。

FINAL GATE: 本番ラインの複雑モデルで工数削減率が50%を割る、または検証コストが上る場合は、ベンダー純正AIの成熟を待つ方針へ切り替える。